

平成 30 年度 和歌山県発達障害者支援センター ポラリス 講演会

「発達障害のある人が社会に出るまでに学ぶべきこと」

～ 家庭・学校での具体的な取り組みについて ～

講 師 教育ジャーナリスト・前中央教育審議会委員
元内閣教育再生会議委員
品 川 裕 香 氏



平成 30 年 7 月 29 日(日)、和歌山県勤労福祉会館プラザホープにて講演会を開催致しました。講師には、教育ジャーナリスト・前中央教育審議会委員・元内閣教育再生会議委員の品川裕香先生をお迎えしました。「発達障害のある人が社会に出るまでに学ぶべきこと～家庭・学校での具体的な取り組みについて～」というテーマで、先生のご経験やエビデンスを基に説得力のあるお話を聞くことができました。

始めに結論として、障害の有無に関わらず、自立と社会参加のために必須なのは「規範意識とセルフ・コントロール」であると示された上で講義が始まりました。

まず、事例を基に、自立や社会参加における実際を教えてくださいました。診断の有無や学歴に関わらず自立や社会参加をしている人は、医学診断名を知っているだけでは不十分で実質的な自己理解があり対処方法も学んでいるとのことでした。また、社会適応が難しい人の中には「働く」意味を理解していなかったり誤解していたりすることもあるため、労働観を養うことが必要であるとのことでした。

そして、しつけや教育の目的、将来社会不適応を起こさないために必要なことを教えてくださいました。子どもを健やかに育む・教育する最終目的は、社会化させることと社会不適応を起こさないようにすることでした。“自立”には、①生活自立②経済的自立③社会的自立④精神的自立があります。支援者が関わっていく中で迷ったら、自分の言動や支援は 4 つの自立のどこをターゲットにしているのか？子どもの言動は、将来の自立と社会参加を踏まえて考えると適切か？を常にイメージできると良いということでした。障害を含めた要因等と問題行動とを同一視せず、例え障害特性からくる問題行動でも、将来の自立や社会参加に関わると思うものは指導することが大切です。

子どもたちに「何」を指導するか？のエビデンスとしては犯罪学の比較処遇論、リスク要因と保護要因のお話をさせていただきました。リスク要因とは、一般的に少年が暴力などの反社会的行動や非行を働く可能性を増すもので、保護要因とはリスク要因による被害を減少させるものです。社会参加に向けては変えられることを変えてリスク要因を減らし、それを上回るように保護要因を増やしていくことが大切です、鉄則は「変えられるリスク要因は変える、変えられないリスク要因はいじらない」でした。

リスク要因としては、攻撃性／多動性・衝動性が強い／感情のコントロールの難しさ／学習障害者としての識別(LD と認めるだけで指導しないこと)／小 4 レベルの読み書きができない等がありました。保護要因としては、社会性および問題解決スキル／セルフ・コントロール／自己効力感／忍耐／小 4 レベルの読み書き／向社会的な関わり(他者に利益を与える行動)／支持的な大人の存在と関与等がありました。“忍耐”とは、注意集中を戦略的に配置する力であり、幼少期から家庭の中で小さな約束を守る習慣をつけることで育つとのことでした。なかなか我慢できない子に対しては、頭ごなしに怒るのではなく我慢の仕方を教えることが大切になります。また、メタ認知の向上によりセルフ・コントロールの土台が育ちますが、感情の言語化がメタ認知の向上に繋がります。感情を言語化するためには、まず感情を表す語彙を知っていて、さらに今のこの感情に当てはまる語彙がこれだと知っていることが必要です。それにはリアルな経験をし、感情と言葉を同時に教えることが大切ということをお話いただきました。

ここで支援を行う際には、障害観を変えることが大切であると示されました。多くの学校や家庭で「問題行動＝障害特性、と誤解していて対応しない」ことがあるため、変えられる部分もあることを覚えておけると良いということでした。

次に、リスク要因の減少・保護要因の強化を効果的に指導するためには、個々の子どもの学習スタイルの多様性を知ることが大切というお話が続きました。先生や保護者の方々は「新学習指導要領・新教育指導要領」を読むことで、学校教育が目指すものを知ることができます。改定指導要領のポイントは、従来の支援は障害種別だったのに対して困難別に変ったことにあります。その中で「発達の特性を踏まえる」ということは、特性に合わせた指導と共にモチベーションも必要になりますが、発達課題のある子は外的動機付けだけでは内的動機付けに繋がりにくいため、「やったらできるかも」という自己効力感を持っていることが大切というお話がありました。

ここで大事なことは個々の脳神経のパターンや発達の特性(見え方や聞こえ方／認知特性／学習スタイル／記憶等の多様性)を踏まえないと、効果的な指導に繋がらないこと。例えば、「指示通りにする」ことをとっても、日本語技術不足／認知の偏り／協調運動や巧緻性の悪さ／ワーキングメモリの悪さ／衝動性や多動性等さまざまな背景が考えられます。そのため、子どもの行動を見て、さまざまな可能性を持ってその背景の仮説を立てながらターゲットを明確にして指導することが必要になります。

最後に、再度結論として「自立と社会参加のためには規範意識とセルフ・コントロールが必須」と示されました。安定的に自立し社会参加していくためには、生物学・認知神経学・医学・心理学・社会的介入の全てを見る必要があります。指導のコツは保護要因の準備とリスク要因の軽減を指導のターゲットにしなが、①個々の脳神経の特性を踏まえる②達成感を積んで自己効力感を高める③リアルな体験と言語化により経験を定着させる④学習レディネスを鍛えることです。

セルフ・コントロールのためには、規則正しい生活／体力／言語力／社会のルールや忍耐を日々の家庭生活の中から教える／家庭の中の役割をもたせ達成させる／保護者・指導者・支援者など大人側もルールを守り、忍耐を持ち、運動し、会話し、そのなかで日々喜びを見つけ人生を楽しむことが必要になります。本来、規範意識は家庭教育で育てるもの。忍耐力には、体が使える／体力がある／日本語が正しく使える／注意集中力を戦略的に配置できる／小さな約束から“守る訓練”を積む(約束は家庭での役割を意識した上で自己決定する)／家庭や社会のルールや倫理を知って守ることが大切とのことでした。家庭ではなかなかそこまでできない場合こそ、指導者支援者がこの視点を持ちながら指導していくことが大切です。

講義の締めには、「障害だからできなくて当たり前」「障害は治らないのだから無理をさせたらかわいそう」のような悲観的教育では子どもを悪化させるけれども、ニーズに応じた適切な指導をすることで社会参加をしていくため、諦めずに、自分自身が幸せになる方法を考えながら一緒にやっていけるように…とお話いただきました。

[質疑応答]

一般就労が良いか障害者手帳が必要かの境界線について

障害だけを見てこの人は障害者手帳が必要、この人は必要ではないとは言えない。当該者がどの程度規範意識やセルフ・コントロール力などのコーピングスキルを身に着けているかを見る必要がある。また希望の就職先と話し合うことが大切。一般就労希望の場合は就職先を探し、その後、難しい場合に手帳をとる方法もある。手帳をとっても必ずしも障害者枠ということではないため、取得後に使うか否かを考えても良い。

就労に向けて“適切な支援を受けながら本人が自身の課題に向けて努力している”ことが大事。自分が頑張れる方法を周囲と一緒に見つけていけるといい。

発達障害の人と仕事を一緒にする上での指導方法について

診断名から考えるのではなく、発達の特徴から考えると良い。その人のしんどい部分がどのような発達課題からきているのか？という仮説を立てて実証し検証し修正していくと良い。

発達障害の子どもが海外で生活することについて

発達課題のある帰国子女は不適応を起こしやすい。一つの言語を集中して学び、まず母語がしっかりできるように。できるだけ日本語を浴びる回数を多くしたり、保護者も話しかけて母語の語彙を増やしたりすることが大切。また、子どもの年齢にもよるが、会話ができてからと言って理解しているとは限らない。母語をしっかり育てること、規範意識を涵養することから始めたい。

外では規範を守る良い子が、家庭では親を振り回したり暴力を振るったりする子について

発達課題というより、例えば愛着の問題やいじめなどほかの課題の可能性も考えられるのではないか。発達障害の子は場面選択ができない場合が多いことも知っておきたい。

他者の気になる行動が目に入ると手がでる子の対応について

「その場から離れるように」と教えるのはどうか？

本人がその方法を使えるのなら良い。方法を教えても使えないことがある。まず本人は“他者の気になる行動が目に入ると手がでる”ことに気付きがあるのか。そしてそのときにどうすると良いか自己決定することを教えていく。ただし、一つの限られた場面限定だけでは実際にはなかなか効果的に使えないことが多いため、協力してあらゆる場面で言語化やセルフ・コントロールしていくとよい。

言語力を伸ばす一般的な方法について

会話をして言葉を浴びる。絵本に加え日頃からリアルな会話の回数が大事。辞書も一つの方法。また、例えば内容理解が難しいなら、その背景は何なのかを見ることが大事。

発達障害の子に自信をつけたいとき、家でできる声かけについて

声かけでは自信はつかない。達成感が積み重なって自己効力感があがってはじめて自信はできる。掃除や植木の手入れなど何でも良いので、今はできていないけれどニーズに応じた指導をすることで達成感を

積み重ねることができるものを見つけたい。大人にできることは場面設定とやらせること。できれば周囲から「ありがとう」と言われる向社会行動だと保護要因の強化になるので良い。
同時に体力をつけること。いきなり道具を使うことは難しいため、まずは歩く、走るなどから山登り、やがてボルダリングなどはおすすめ。発達的な特性の訓練になるものも取り入れていけると良い。

品川先生には、台風の影響で天候や交通機関が不安定な中、和歌山までお越しいただき本当に感謝しております。約 3 時間半にわたるご講義と参加者の皆様からのご質問に対してもとても丁寧にお答えいただきました。おかげさまで、参加者の皆様が知識と諦めずに頑張る力を受け取り、明日からの活力を得ることができました。本当にありがとうございました。

末筆になりましたが、品川先生のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



- ・自立と社会参加のためには、規範意識とセルフ・コントロールが大切であることを改めて意識することができました。自立に向けて出来ること、根気よく関わられたらと思います。時代が進み子どもの育ちもずいぶん変わりつつありますが、待つ経験、忍耐力をつける事も気づけてよかったです。
- ・子どもの状態の色々な背景を分析してそこからアプローチしていかないといけないことがよくわかった。障害名のラベリングで終わってしまっていることも多いように思うので、自己効力感を高めるためにできることから諦めずに向き合っていきたいと思った。
- ・ずっと「自己肯定感を高める！」という言葉だけが世間で言われていることに疑問を感じていました。今回の講演を聞かせていただき、自己効力感を高めることが大切であり、そのためにはその方がつまづいていることは何が原因かを探り、共に学習していくことが大切だと思いました。私は福祉の立場として、担当者さんが「自分にはできる力がある(かも)」とでも思ってもらえるように支援していきたいです。
- ・自己効力感についての話がとてもよくわかり、胸にストンと落ちました。これが上がると必然的に自己肯定感が上がる、本当にその通りだと思いました。今日の先生のお話から、大人が楽をして子どもだけ変えようとしてもダメだということを随所にお尻を叩かれたように思います。楽しい将来を描けるように大人が見本にならないといけないと思いました。
- ・保護要因とリスク要因の考え方がすごく受け入れやすかったです。変えられる所は変えて、変えられない所はおいておく。無理強いせずに出来る事だと思います。
- ・関係者全員が動的リスク要因を少しでも下げ、保護要因を強化する視点を持つことが大切だとわかって良かったです。リスク要因を上回る保護要因を持てるようにエビデンスに基く支援方法を勉強していきたい。
- ・非行の話、反社会的行動の話、大変参考になりました。もっと詳しく聞きたい。豊富な情報量で良かったです。
- ・忍耐力を鍛える等は初めて聞いたので、知れてよかったです。
- ・ICFは知らなかったなので、わかりやすい説明があり良かったです。
- ・自分の子育てに対する向き合い方が変わった。自分の反省できる良い機会となった。「発達障害のある人」だけでなく、すべての人に通じることと感じ、とても参考になりました。
- ・高齢者福祉関係ですが、共通する部分が多く、とても分かりやすく学ばせて頂く事が出来ました。
- ・本や支援者さんから聞いた知識だけで行動せず、まずは家庭から見直し、子どもに合った関わりを持ち、忍耐力を高めていこうと思いました。
- ・障害だから仕方ないと思うのではない、という希望がもてた。
- ・子どもに必要な力をつけるには、親の正しい理解と突き放す勇気、少し先を見る目、そして私自身が子どもの力を信じて諦めないことだと感じました。小学生の子どもに家庭での役割を与えたいと思います。
- ・障害があるだけでなく、何が困っているか、分析が大切ということがよく分かりました。
- ・「やれば出来る」気持ちの積み重ねが大切ということがよく分かりました。
- ・脳も遺伝子も鍛えれば変わる、小さい頃から約束事を守るように教える、正しく教わり正しく理解、正しく実践等、印象に残りました。
- ・辛いと思うことが多々ありますが、自分だけは自分の事を諦めないでと言われて本当に目頭が熱くなりました。
- ・子どもが親亡き後を豊かに生きていくために、親としてどう関わり育てていくのがよいか考える良い機会になりました。
- ・診断の有無に関わらず、社会のルールを守り、学び、社会参加する(自立する)という当たり前のことだが、改めて考えた。
- ・将来に備えて、障害があってもあきらめず楽観的教育観でやっていこうという気持ちをもられました。学習指導要領も読んでみます。
- ・進学させるために表面上どうしようとばかり考えていた気がします。背景や根っこの部分をもう少し勉強してみようと思いました。
- ・息子を育てている中で、心が折れそうになるけど、諦めない、やればできる、というお言葉を聞けて、より一層頑張りたいと思いました。もっと息子の行動を見つめ、この子に合ったニーズで家族を見出していきます。
- ・ホームページ等、勉強の手がかりも教えていただけて良かったです。
- ・苦手なことを放置していたことを反省した。
- ・利用者さんから障害があるから出来ないという主張があるが、特性理解と対処方法を間違えずに自己効力感をつけてもらうように支援していくことが大事だと学びました。

- ・周囲の理解だけでは本人自身の力がつかない。メタ認知で自己理解をしながら訓練をしていく、とてもよくわかりました。
- ・ワーキングメモリについて詳しく知りたいと以前から思っていたので、研究者の先生を紹介して頂いてありがたかったです。
- ・問題行動＝障害特性と捉えて対応しないのは良くない。適切に指導すれば問題行動は変えられる、という言葉にハッと気づかされた思いです。また希望が持てる言葉でした。ただ、適切な指導をするためには正しくアセスメントすることが必要だと思いますが、そこが難しいと思いました。
- ・支援の方向性についてここ数年悩んでいた部分がありましたが、利用者のために何をしていけばよいのか、自分の思いや考えを再認識できました。
- ・自立の中身を日頃の支援の中で考えていくというのは、明日から実践できると思いました。支援の細やかさを改めて感じ、評価の視点を広くして、必要であれば関係機関に紹介する等の対応ができたらと感じました。
- ・セルフ・コントロールや規範意識の大切さ、そのために必要な規則正しい生活、体力、言語力等、勉強になりました。学校で出来ることを2学期に向けて考えていこうと思いました。
- ・時代や環境が変わってきたことで、忍耐する場面が減っていることに関してはなるほどと思いました。
- ・疾患や問題行動という概念を超えて、認知の問題に焦点を当てつつ、包括的に対策することで社会的な自立に向かう道筋を見せていただいたこと。犯罪防止、課題の把握と対策の普遍化(障害という枠を超えて)まで提示していただけたこと。

要望・改善してほしい点について

- ・レジュメの印刷が薄い部分等あり、見えづらかった。
- ・資料の文字が細かすぎて読めないなので、読める大きさにしてほしい。
- ・資料が白黒のせいか、とても見づらい。資料は、可能であればカラー印刷してほしい。
- ・参加費が高くなってかまわないので、レジュメを全部ほしいです。スピードが早く全然うつせない。
- ・当日スライドが大量に追加されメモが間に合いません。講師の了承があればPDFなどの形であとからでも閲覧できるようにしていただけるとありがたい。
- ・参加者だけがログインできるパスワード配布で、講演会資料をホームページに載せてほしい。
- ・難しい言葉が多いので、注釈つけてほしい。
- ・専門的な内容はもう少しゆっくり説明してほしい。
- ・受講者の幅がとても広いので、一保護者には内容が盛りだくさんで難しいところもありました。支援者と保護者と当事者とまた別に聞けたらもっとわかりやすかったのかもしれないと思いました。
- ・時間が足りず残念でした。また機会があれば先生のお話をお聞きしたいと思います。
- ・質問への回答時間がもっと欲しかった。
- ・全体的に急ぎ足になってしまっていたので、一日などもっと長い時間をかけて講義を聞きたかった。
- ・もっとお話を聞きたい。2回に分けて講演してもらえたら。
- ・公演時間が短く、最後の方は詳しく聞けなくて残念。
- ・会場の都合があるのは仕方ないですが、やはり机がほしい。
- ・会場の場所の記載はパンフにありましたが、何階かが分からなかったのので、記載があれば助かります。
- ・質問用紙の提出期限がわからない。2回目の休みでも出せるのかと。また、1枚出した後2枚目がほしかった。
- ・子どもを持つお友達に講演会のことを教えてあげたところ、定員オーバーで残念がっていました。
- ・参考図書、論文をまとめて一覧にほしい。
- ・本の販売を合わせて行ってほしい。
- ・夏休みで参加したくても長時間は無理という友人が多い。もう少し短時間で、違う時期にもお願いしたい。

ポラリスへの要望や関心のあることについて

- ・眼球運動
- ・人権
- ・保護者支援に関心がある
- ・未学習、不足学習、誤学習な子ども達への支援をもっと知りたい
- ・中高生への対応(実践的なもの)について学べる機会があれば
- ・発達障害を持つ子どもに対して、具体的指導例を通して、聞けることがあればうれしい
- ・発達障害について新しい知識のない一般人向けの講演
- ・今回のように発達の子どものための支援について、より深く掘り下げた内容の講演会を聞きたい。
- ・小中高大など教育現場の先生の声が聞きたいです。
- ・社会に出て頑張っていけるようにトレーニング、またはアドバイスを当事者にしてくれる場を提供してほしい。
- ・相談窓口ばかりではなくて、発達障害の療育機関をつくってほしい。
- ・幼保、小中高移行の情報共有と引継ぎ、関係機関の連携、地域特性を活かした支援の在り方、当事者研究など

次回以降の講演会への要望

- ・どうしたらよいかという方法、具体例
- ・職場で出来るような指導方法が知りたい
- ・自立支援の具体的なケース、成功例、失敗例含め、色々な事例を学びたい
- ・知的障害+ASD、ADHDなどのケースについて
- ・グレーゾーンの方はどうすればよいか聞きたかった
- ・家庭基盤が弱いケースの支援について
- ・最新の知見や臨床について、先進的な地域で行われている実践について
- ・実行機能、ワーキングメモリーなど脳科学的な内容
- ・愛着について、ワーキングメモリーについて、レジリエンスについて
- ・セルフ・コントロールの所をもう少し話が聞きたかった
- ・ペアレントメンターの話
- ・SSTとは何か
- ・認知行動療法をよくわかるように教えてほしい。
- ・通級、支援級、普通級、どれだけ違うか。
- ・思春期についての講演
- ・それぞれの生活ステージでつけておくべき力、学ぶべきこと
- ・子ども達が身に付けておくべき現代ならではのスキルについて知りたい。
- ・発達症のある中学生が上手く生活していくための方法等。
- ・不登校生徒への支援や対応について
- ・社会に出た後の不適應への対応についての講演
- ・社会に出てから躓いて引きこもっている方の対応等について
- ・子どもでも聞けるような場面あれば嬉しい
- ・教師対象の講演。何校か合同で研修会とか、私学の講演会とかでお話を聞ける機会があれば
- ・また違う側面から品川先生の話を知りたいと感じた。
- ・小栗先生のお話をまたお聞きしたいです

- ・紀南、特に東牟婁地方でも講演会を開催してもらいたい。
- ・この天候の中開催していただき、ありがとうございました。
- ・大変な天候だったが、ホームページで知らせて頂いてわかりやすかった。

アンケートに対する回答

- ・ケース会議等を学校で行う場合、ポラリスの相談を受けている子どもに関しては、保護者の同意があれば参加していただけるのか？それとも個別相談のみか。相談の色々なケースについて、ホームページ等で知れたらありがたいです。色々なケースがあるので、問い合わせた方がよいでしょうか。

→ ケース会議等に参加させていただくことは可能です。ポラリスでどのように支援させていただけるかは、お問合せいただければ相談内容に応じて検討いたします

この他にもいただきました沢山の貴重なご意見・ご感想を、
これからの活動にいかしていきたいと思えます。

どうもありがとうございました。